

■ ITLSモデルカリキュラム（初版）

【概要】

本モデルカリキュラムは、ITLSの1級を目指す人材を対象としている。講習を通じITリテラシーを習得しようとする際のひとつの参考モデルとして提示するものであり、具体的な講習の実施において厳密な準拠を求めるものではなく、実際の受講者の特徴やニーズを捉えた講義内容、eラーニングの活用など実施環境の工夫等に応じた柔軟な講習設計を妨げるものではない。

①コマタイトル一覧 1コマ120分×15回（総時間：30時間）

	タイトル	学習目標	予定時間
第1回	ITの動向(1) ～ITの潮流とビジネスへの影響～	・最新のITの動向と代表的な新しいビジネス形態、ワークスタイルを理解し、ステークホルダーと円滑なコミュニケーションをとることができる。	講義 60分 演習 60分
第2回	ITの動向(2) ～各種情報システムの特徴～	・情報システムの戦略の目的を理解し、社会や身近な業務にどのように活用されているかを説明できる。	講義 90分 演習 30分
第3回	ITの動向(3) ～ハードウェアの選択と適用～	・システムを構成するハードウェアの特徴を説明できる。	講義 90分 演習 30分
第4回	ITの動向(4) ～サービスやソフトウェアの選択と適用～	・システムを構成するソフトウェアとライセンスの考え方、特徴を説明できる。	講義 90分 演習 30分
第5回	ITの動向(5) ～メディア処理技術とネットワーク基礎～	・メディア処理技術やネットワークの基本的な考え方を説明できる。	講義 90分 演習 30分
第6回	ビジネスの改善・刷新 (1) ～情報の取得・分析(情報分析手法・マーケティング)～	・ビジネス戦略立案のための代表的な情報分析手法、経営戦略手法を理解し、ステークホルダーと円滑なコミュニケーションをとることができる。	講義 60分 演習 60分
第7回	ビジネスの改善・刷新 (2) ～情報の取得・分析(データベース、データ活用、アルゴリズム)～	・ビッグデータ(業務データ)から業務改善や問題解決を行うための方法を説明できる。	講義 90分 演習 30分
第8回	ビジネスの改善・刷新 (3) ～改善・刷新の実施と操作・表現の技術～	・業務モデルにおける代表的なモデリング手法、ITを利用した業務の自動化・効率化を理解し、コミュニケーションに効果的なITの利用を説明できる。	講義 90分 演習 30分

	タイトル	学習目標	予定時間
第9回	ビジネスの改善・刷新 (4) ～操作・表現の技術(ヒューマンインタフェースとグラフィックス処理)～	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンインタフェースにおいて重要なポイントを理解し、具体例を示して比較できる。 	講義 90分 演習 30分
第10回	リスク対応(1) ～規程・方針と脅威～	<ul style="list-style-type: none"> ・企業規範の考え方や、どのような取組みがあるかを説明できる。 ・情報モラルの基本的な考え方を理解し、ビジネスシーンで活用できる。 ・情報セキュリティの概念、脅威、脆弱性、攻撃手法に関して説明できる。 	講義 90分 演習 30分
第11回	リスク対応(2) ～対策～	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策の基本的な考え方、組織において必要な対策を提示できる。 	講義 120分
第12回	リスク対応(3) ～最近の脅威の動向～	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の脅威の動向と対策について説明できる。 	講義 90分 演習 30分
第13回	ITへの投資(1) ～開発・運用の技術～	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の基本的な流れを理解し、プロジェクトのステークホルダーと円滑なコミュニケーションをとることができる。 	講義 120分
第14回	ITへの投資(2) ～コンピュータ科学・IT関連法規～	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの構成と性能を表す指標、IT関連法規の種類や概要について説明できる。 	講義 60分 演習 60分
第15回	ITLS 研修総合	<ul style="list-style-type: none"> ・ITLS 研修で学んだ事項をふまえ、自らの業務課題に沿った改善策を提案できる。 	ディスカッション 60分 発表 60分

②コマシラバス

第1回 ITの動向(1) ～ITの潮流とビジネスへの影響～	
学習目標	・最新のITの動向と代表的な新しいビジネス形態、ワークスタイルを理解し、ステークホルダーと円滑なコミュニケーションをとることができる。
内容	<p>1. 企業の主な業務活動</p> <p>(1) 企業活動と経営資源</p> <p>(2) 経営管理</p> <p>2. 企業活動におけるITの有効活用</p> <p>(1) ビジネス形態の動向</p> <p>(2) シェアリングエコノミーの基本的な考え方と事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーシェアやライドシェア、クラウドソーシング、クラウドファンディングなど <p>(3) サブスクリプション方式の基本的な考え方と事例</p> <p>(4) テレワークの基本的な考え方と事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務やモバイルワーク、サテライトオフィス勤務やSOHO (Small Office/Home Office) など <p>3. AI (Artificial Intelligence)</p> <p>(1) AIの基本的な考え方</p> <p>(2) 一般的なAIの分類と活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単純な制御プログラム ・対応パターンが複雑化(探索・推論) ・対応パターンを自動学習(検索エンジン・ビッグデータ分析など) ・特徴量の設計(ディープラーニングなど) <p>4. RPA (Robotic Process Automation)</p> <p>(1) RPAの基本的な考え方と分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EPA(Enhanced Process Automation)、CA(Cognitive Automation)など <p>(2) RPAの活用事例</p> <p>5. クラウドコンピューティング(クラウドサービス)</p> <p>(1) クラウドコンピューティングの基本的な考え方</p> <p>(2) 主なクラウドサービスの活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IaaS/PaaS、SaaS、DaaSの考え方と特徴 <p>(3) マルチクラウドの概要</p> <p>6. その他の技術動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT、ビッグデータ、第5世代移動通信システム(5G)、モーションキャプチャー等を活用したVR(仮想現実)の概要 <p>● 演習:【最新のビジネス形態・ワークスタイルを調べ、自社の業務に活かせる点、メリット・デメリットなどについて発表し質疑応答を行う】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 60分 演習 60分
その他特記事項	

第2回 ITの動向(2) ～各種情報システムの特徴～

学習目標	・情報システムの戦略の目的を理解し、社会や身近な業務にどのように活用されているかを説明できる。
内容	<p>1. 情報システム戦略と戦略目標</p> <p>(1) 情報システム戦略と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SoR (Systems of Record)、SoE (Systems of Engagement) の考え方と特徴 <p>2. 経営管理システム</p> <p>(1) 経営管理システムの考え方と特徴</p> <p>(2) 代表的な経営管理システムの例</p> <p>3. EC (e-commerce)</p> <p>(1) EC 事業の考え方と特徴、分類</p> <p>(2) フィンテックの考え方と特徴、活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モバイル決済、ロボアドバイザー、ソーシャルレンディング、仮想通貨など <p>(3) その他 EC 事業の活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レコメンデーション、デジタルサイネージなど <p>4. エンジニアリングシステム</p> <p>(1) エンジニアリングシステムの考え方と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CIM (Computer Integrated Manufacturing)、センシング技術 <p>(2) 代表的なエンジニアリングシステム例</p> <p>5. 組み込みシステム</p> <p>6. IoT システム</p> <p>(1) IoT システムの考え方と特徴</p> <p>(2) IoT を利用したシステムの活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業用のドローンやロボットの活用方法、エネルギーの収集方法や利用方法、各種産業（金融、農業、医療、物流など）における活用方法 <p>● 演習：【情報システム（現在自社で利用している、今後業務に活かせる）について意見を出し合い発表する】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 90分 演習 30分
その他特記事項	

第3回 ITの動向(3) ～ハードウェアの選択と適用～

学習目標	・システムを構成するハードウェアの特徴を説明できる。
内容	<p>1. コンピュータで扱うデータ</p> <p>(1) 2進数の基本的な考え方</p> <p>(2) 情報量の単位と表し方</p> <p>(3) アナログとデジタルの特徴と符号化・標準化</p> <p>2. コンピュータの構成要素</p> <p>(1) 代表的なコンピュータの種類と特徴</p> <p>(2) コンピュータの構成</p> <p>(3) 各構成要素の種類と特徴</p> <p>・CPU、メモリ、記録媒体、入出力インタフェース</p> <p>(4) デバイスドライバの種類と特徴</p> <p>3. IoTデバイスの役割と構成</p> <p>(1) IoTデバイスの特徴</p> <p>・センサ、アクチュエータなど</p> <p>(2) IoTデバイスにおけるデータの収集方法や分析方法</p> <p>(3) 各種センサの仕組みや測定方法</p> <p>(4) 身近なIT機器での活用方法</p> <p>● 演習【主要なハードウェアについて、その役割や特徴を説明し合う】</p> <p>● 演習【最新のハードウェア動向を調べ発表する】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 90分 演習 30分
その他特記事項	※実機を利用して理解を深める(ハードウェア構成など)

第4回 ITの動向(4) ～サービスやソフトウェアの選択と適用～

学習目標	・システムを構成するソフトウェアとライセンスの考え方、特徴を説明できる。
内容	<p>1. オペレーティングシステム (OS) とアプリケーション</p> <p>(1) OS の基本的な考え方と機能</p> <p>(2) OS の種類と特徴</p> <p>(3) アプリケーションの基本的な考え方</p> <p>(4) アプリケーションの種類と特徴</p> <p>2. オープンソースソフトウェア (OSS)</p> <p>(1) OSS の特徴と留意点</p> <p>(2) OSS の種類</p> <p>3. オフィスツールなどのソフトウェアパッケージ</p> <p>(1) 文書作成ソフト、表計算ソフトなどのソフトウェアパッケージの特徴</p> <p>4. ビジネスシステムのソフトウェアパッケージ</p> <p>(1) 業務別・種別ソフトウェアパッケージ</p> <p>(2) クラウドサービスの活用</p> <p>5. ソフトウェアライセンス</p> <p>(1) ライセンス形態</p> <p>・使用許諾契約、サブスクリプション、アクティベーションなど</p> <p>(2) ライセンス管理</p> <p>● 演習【利用経験があるソフトウェアのライセンス形態の種類を調査し発表する】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 90分 演習 30分
その他特記事項	

第5回 ITの動向(5) ～メディア処理技術とネットワーク基礎～

学習目標	・メディア処理技術やネットワークの基本的な考え方を説明できる。
内容	<p>1. 音声、画像、動画などの信号処理技術</p> <p>(1) 音声・画像・動画の主なファイル形式</p> <p>(2) 情報の圧縮と伸張</p> <p>2. ネットワーク</p> <p>(1) ネットワークの種類と形態</p> <p>(2) インターネットやLANの接続装置の役割</p> <p>(3) プロトコルの必要性と代表的なプロトコル</p> <p>(4) インターネットの仕組みとIPアドレス</p> <p>(5) 通信サービスの概要</p> <p>3. IoT ネットワークの構成要素</p> <p>(1) IoT デバイスを接続するIoT ネットワークの構成や通信方式</p> <p>・LPWA、エッジコンピューティング、BLE、IoT エリアネットワーク</p> <p>(2) 用途に応じた高速ネットワーク(5Gなど)と低速ネットワーク(LPWAなど)の使い分け</p> <p>● 演習【PC等のネットワークへの接続と接続確認を行う】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 90分 演習 30分
その他特記事項	※実機を利用して理解を深める(ネットワーク接続設定など)

第6回 ビジネスの改善・刷新(1) ～情報の取得・分析(情報分析手法・マーケティング)～

学習目標	<p>・ビジネス戦略立案のための代表的な情報分析手法、経営戦略手法を理解し、ステークホルダーと円滑なコミュニケーションをとることができる。</p>
内容	<p>1. リサーチの基本的な考え方、方法</p> <p>(1) 情報の検索・取得</p> <p>(2) 情報の整理、分析</p> <p>(3) 情報の編集、発信</p> <p>2. ビジネス戦略と目標・評価</p> <p>(1) ビジネス戦略の考え方</p> <p>(2) ビジネス戦略立案及び評価のための情報分析手法</p> <p>・ BSC (Balanced Scorecard)、KGI (Key Goal Indicator)、バリューエンジニアリングなど</p> <p>3. 経営戦略手法</p> <p>(1) 経営戦略の考え方</p> <p>・ イノベーション、コモディティ化など</p> <p>(2) 代表的な経営情報分析手法</p> <p>・ SWOT 分析、PPM (Product Portfolio Management) など</p> <p>4. マーケティング</p> <p>(1) マーケティングの目的と重要性</p> <p>(2) 主なマーケティング分析手法</p> <p>・ 市場調査、PEST 分析、UX (User Experience)、イノベーター理論、ファイブフォース分析など</p> <p>(3) Web マーケティングの特徴と重要性</p> <p>・ SEM(Search Engine Marketing)・SEO(Search Engine Optimization)の特徴</p> <p>・ レコメンデーション、マーケティングオートメーションの特徴</p> <p>● 演習【Web マーケティングの種類や特徴を調べ、利用可能な手法と用途を検討し発表する】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	<p>講義 60分</p> <p>演習 60分</p>
その他特記事項	

第7回 ビジネスの改善・刷新(2) ～情報の取得・分析(データベース、データ活用、アルゴリズム)～

学習目標	・ビッグデータ(業務データ)から業務改善や問題解決を行うための方法を説明できる。
内容	<p>1. ビッグデータとデータベース</p> <p>(1) データベースの目的、特徴、データベースモデルの考え方</p> <p>(2) データ(ビッグデータ)の分析と設計</p> <p>(3) 排他制御とリカバリ機能の概要とその必要性</p> <p>2. ビッグデータ(業務データ)から業務改善や問題解決を行うためのデータ活用</p> <p>(1) 正しい情報の収集とアウトプットの仕方</p> <p>(2) データ分析の概要(確率・統計・データ形式)</p> <p>(3) データを収集・加工するBIツール</p> <p>(4) 関連データを洗い出すデータウェアハウス</p> <p>(5) データを有効活用するデータマイニング</p> <p>(6) データの分析を行う専門分野であるデータサイエンス</p> <p>3. 業務の分析やシステム化を行うためのアルゴリズムと流れ図</p> <p>(1) アルゴリズムや流れ図とは</p> <p>(2) アルゴリズム基本構造</p> <p>・順次構造、選択構造、繰り返し構造</p> <p>(3) 流れ図の記号と処理手順</p> <p>(4) プログラミングとは</p> <p>● 演習【日常の業務をアルゴリズムの考え方に基づいて書き表す】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 90分 演習 30分
その他特記事項	

第8回 ビジネスの改善・刷新 (3) ～改善・刷新の実施と操作・表現の技術～

学習目標	<p>・業務モデルにおける代表的なモデリング手法、IT を利用した業務の自動化・効率化を理解し、コミュニケーションに効果的な IT の利用を説明できる。</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務改善・問題解決に向けた業務プロセスの分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) モデリングの考え方 (2) 代表的なモデリング手法 <ul style="list-style-type: none"> ・ E-R 図、DFD、BPMN (Business Process Modeling Notation) など 2. 業務の把握と分析・表現方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 業務フローを利用した業務把握と視覚化 (2) 業務分析と業務計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表やグラフによるデータ分析、パレート図や回帰分析を使った業務改善 (3) 論理的、効果的なレポート作成 3. さまざまな業務改善及び問題解決の事例 <ol style="list-style-type: none"> (1) RPA、IoT、AI を活用した業務の自動化、効率化 (2) コミュニケーションの効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ会議、電子メール、SNS、グループウェアの導入など <p>● 演習【現在の業務で利用しているコミュニケーション手段のメリット・デメリットについてディスカッションする】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	<p>講義 90 分 演習 30 分</p>
その他特記事項	

第9回 ビジネスの改善・刷新(4) ～操作・表現の技術(ヒューマンインタフェースとグラフィックス処理)～

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ヒューマンインタフェースにおいて重要なポイントを理解し、具体例を示して比較できる。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 情報システムにおけるファイル管理 <ol style="list-style-type: none"> バックアップの必要性 世代管理の考え方 ヒューマンインタフェース技術 <ol style="list-style-type: none"> ヒューマンインタフェースの考え方 GUI の特徴 インタフェース設計 <ol style="list-style-type: none"> ソフトウェアの画面や帳票を設計する際の考え方 Web デザインの統一性やユーザビリティ ユニバーサルデザイン (Web アクセシビリティ) マークアップ言語 <ol style="list-style-type: none"> マークアップ言語の種類と特徴 <ul style="list-style-type: none"> HTML、XML、SGML など グラフィックス処理技術 <ol style="list-style-type: none"> グラフィックス処理の特徴 グラフィックス処理技術の応用 <ul style="list-style-type: none"> バーチャルリアリティ (VR)、拡張現実 (AR)、シミュレーション <p>● 演習【ユーザビリティやユニバーサルデザインの観点で特徴的な Web サイトを選定し、理由と合わせて紹介する】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 90分 演習 30分
その他特記事項	

第10回 リスク対応(1) ～規程・方針と脅威～

<p>学習目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業規範の考え方や、どのような取組みがあるかを説明できる。 ・情報モラルの基本的な考え方を理解し、ビジネスシーンで活用できる。 ・情報セキュリティの概念、脅威、脆弱性、攻撃手法に関して説明できる。
<p>内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業規範と取組み 2. 個人情報保護法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個人情報保護法とは <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮個人情報、匿名加工情報など (2) 個人情報保護法の必要性 (3) 関連する法律・制度 <ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバー法、プライバシーマーク制度、個人情報保護委員会など (4) その他の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーポリシー、安全管理措置、サイバー保険など 3. 不正競争防止法（営業秘密） 4. セキュリティ関連法規 <ol style="list-style-type: none"> (1) サイバーセキュリティ基本法 (2) 不正アクセス禁止法 5. 情報モラルとセキュリティ <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報モラルの基本的な考え方と目的 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の適切な取り扱い、メールやWebによるコミュニケーションなど 6. 情報セキュリティ <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報セキュリティの概念 (2) 代表的な情報資産の種類 (3) 脅威の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・人的脅威（ソーシャルエンジニアリング、クラッキング、不正のトライアングルなど） ・技術的脅威（ランサムウェア、スパイウェア、ガンブラー、RATなど） ・物理的脅威 (4) 脆弱性 <ul style="list-style-type: none"> ・シャドーIT、セキュリティホール (5) 攻撃手法の種類と特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・標的型攻撃（水飲み場型攻撃、やり取り型攻撃ほか）、ばら撒き型など ・MITB、ドライブバイダウンロード、クロスサイトスクリプティングなど <p>● 演習【情報モラルに違反する事柄について具体例を基にディスカッションする】</p>
<p>研修・教育方法 (予定時間)</p>	<p>講義 90分 演習 30分</p>
<p>その他特記事項</p>	

第 11 回 リスク対応 (2) ～対策～

学習目標	・情報セキュリティ対策の基本的な考え方、組織において必要な対策を提示できる。
内容	<p>1. 情報セキュリティ管理</p> <p>(1) リスクマネジメントの流れ</p> <p>(2) 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の考え方</p> <p>(3) 情報セキュリティ組織、機関、制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ委員会、CSIRT、SOC、コンピュータ不正アクセス届出制度、J-CSIP、J-CRAT <p>2. 情報セキュリティ対策</p> <p>(1) 人的セキュリティ対策の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティポリシー、クリアデスク、クリアスクリーン、教育など <p>(2) 技術的セキュリティ対策の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイアーウォール、DLP、DMZ、MDM、ブロックチェーンなど <p>(3) 物理的セキュリティ対策の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監視カメラの設置、施錠管理、入退室管理、バイオメトリクス認証など <p>3. 情報セキュリティ実装技術</p> <p>(1) 暗号技術の基本的な仕組みと暗号強度などの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド暗号方式、ディスク暗号化など <p>(2) 認証の必要性と認証技術の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル署名 (署名鍵、検証鍵)、タイムスタンプ (時刻認証) など <p>(3) 利用者認証のために利用される技術の種類、特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス管理、多要素認証など <p>(4) 生体認証技術の種類、特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静脈パターン認証、虹彩認証、声紋認証、顔認証、網膜認証、本人拒否率、他人受入率など <p>(5) 公開鍵基盤 (PKI) の基本的な仕組みと特徴</p> <p>4. IoT システムのセキュリティ</p> <p>(1) IoT のセキュリティ対策</p> <p>(2) IoT セキュリティガイドライン</p> <p>(3) コンシューマ向け IoT セキュリティガイド</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 120 分
その他特記事項	

第12回 リスク対応(3) ～最近の脅威の動向～

学習目標	・最近の脅威の動向と対策について説明できる。
内容	<p>1. 標的型攻撃による被害</p> <p>(1) 被害の概要</p> <p>(2) 攻撃手口と事例 ・メールの利用、Webの利用</p> <p>(3) 対策(予防と対応)</p> <p>2. ランサムウェアによる被害</p> <p>(1) 被害の概要</p> <p>(2) 攻撃手口と事例 ・メールの添付ファイル、悪意のあるウェブサイトへのリンク、製品の脆弱性を悪用など</p> <p>(3) 対策(予防と対応)</p> <p>3. ビジネスメール詐欺による被害</p> <p>(1) 被害の概要</p> <p>(2) 攻撃手口と事例 ・なりすまし、メールアカウントの乗っ取りなど</p> <p>(3) 対策(予防と対応)</p> <p>4. Webサービスからの個人情報の窃取</p> <p>(1) 被害の概要</p> <p>(2) 攻撃手口と事例 ・ウェブアプリケーションの脆弱性を悪用、共通的に使われるソフトウェア(OpenSSL、Apache Struts、WordPress等)の脆弱性を悪用など</p> <p>(3) 対策(予防と対応)</p> <p>5. IoT機器の脆弱性の顕在化</p> <p>(1) 被害の概要</p> <p>(2) 攻撃手口と事例 ・IoT機器の脆弱性を悪用、感染したIoT機器の機能を不正利用など</p> <p>(3) 対策(予防と対応)</p> <p>● 演習【自社(自分)にとっての脅威を列挙し、情報セキュリティに必要な対策を検討し発表する】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	<p>講義 90分</p> <p>演習 30分</p>
その他特記事項	

第13回 ITへの投資(1) ～開発・運用の技術～

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の基本的な流れを理解し、プロジェクトのステークホルダーと円滑なコミュニケーションをとることができる。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム化計画の目的と要件定義 2. 調達計画・実施 <ul style="list-style-type: none"> (1) 調達の流れ（情報提供依頼、提案依頼書、提案書） 3. ソフトウェアの見積り 4. 開発プロセス・手法 <ul style="list-style-type: none"> (1) 代表的なソフトウェア開発手法の特徴 (2) 代表的なソフトウェア開発モデルの特徴 (3) アジャイルの基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・XP、テスト駆動開発、ペアプログラミング、リファクタリング、スクラム 5. プロジェクトマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) プロジェクトの意義及び特徴 (2) プロジェクトマネジメントのプロセス 6. サービスマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) IT サービスマネジメントの意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> ・ITIL（Information Technology Infrastructure Library） (2) サービスサポートの役割と機能 (3) サービスデスク（ヘルプデスク） <ul style="list-style-type: none"> ・エスカレーション、FAQ、チャットボット、AI を活用したサービスデスクの運用方法 7. ファシリティマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) ファシリティマネジメントの意義と目的 (2) システム環境整備 8. システム監査 <ul style="list-style-type: none"> (1) システム監査の目的 (2) システム監査のプロセスの流れ 9. 内部統制 <ul style="list-style-type: none"> (1) モニタリング (2) レピュテーションリスク (3) IT ガバナンスの意義と目的
研修・教育方法 (予定時間)	講義 120分
その他特記事項	

第14回 ITへの投資(2) ～コンピュータ科学・IT関連法規～

学習目標	・システムの構成と性能を表す指標、IT関連法規の種類や概要について説明できる。
内容	<p>1. システムの構成</p> <p>(1) 代表的な処理形態の特徴</p> <p>(2) 代表的なシステム構成の特徴</p> <p>(3) 代表的な利用形態の特徴</p> <p>(4) システムの性能、信頼性、経済性の評価指標</p> <p>(5) クラウド利用を前提としたアーキテクチャの特徴</p> <p>2. 知的財産権</p> <p>(1) 著作権法</p> <p>(2) 産業財産権関連法規 ・特許法、ビジネスモデル特許、実用新案法、意匠法、商標法、トレードマーク、サービスマーク</p> <p>3. 労働関連法規</p> <p>(1) 労働基準法</p> <p>(2) 労働者派遣法（労働者派遣事業法）</p> <p>(3) 守秘義務契約</p> <p>4. 取引関連法規</p> <p>(1) 下請法</p> <p>(2) PL法</p> <p>(3) 資金決済法</p> <p>(4) 金融商品取引法</p> <p>● 演習【最終回に向けて第1回から第14回までの研修内容を総合的に振り返る】</p>
研修・教育方法 (予定時間)	講義 60分 演習 60分
その他特記事項	

第 15 回 ITLS 研修総合 (ディスカッション 60 分+発表 60 分)

学習目標	ITLS 研修で学んだ事項をふまえ、自らの業務課題に沿った改善策を提案できる。
内容	<p>1. 提案の検討</p> <p>ITLS 研修で学んだ「IT の動向」「ビジネスの改善・刷新」「リスク対応」「IT への投資」の内容を参考に業務の改善・刷新案をディスカッションしながら検討する。</p> <p>※ 現在の業務、もしくは架空の業務（状況を提示）に対する提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で案を考え概要を発表 ・他の受講者や講師から質問やフィードバック（着眼点や発想の良さ、期待される効果等） ・フィードバックや他の受講者案を参考に、自身の案を詳細化 <p>2. 発表</p> <p>IT を活用した業務の改善・刷新案を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表時間は状況に合わせて設定 ・発表+フィードバックを実施 <p>3. 総括（研修の最後に）</p>
研修・教育方法 （予定時間）	ディスカッション 60 分 発表 60 分
その他特記事項	講義終了後の受講レポート、定量アンケート、知識確認テスト、演習問題の取組み状況を総合的に判断して評価を行う。